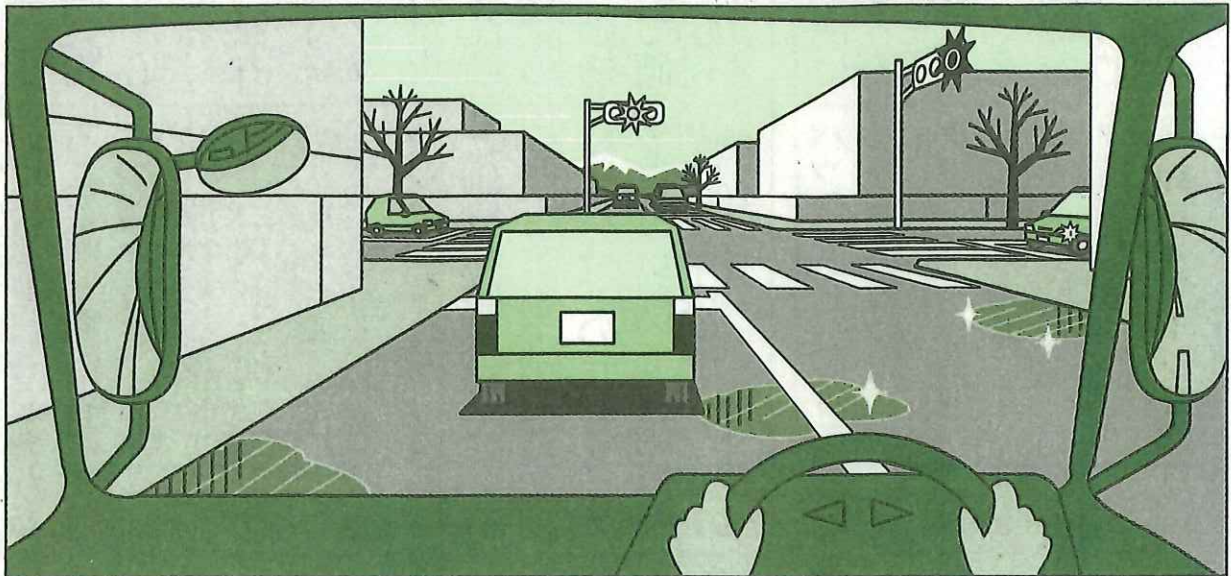


危険予知訓練 (KYT) シート：交通事故防止編 あなたならどうしますか？

〔第 163 回〕「凍結している交差点への接近時」

状況

あなたは早朝の凍結した道路を前車に追従しながら走行しています。前方の交差点の信号が黄色に変わりました。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



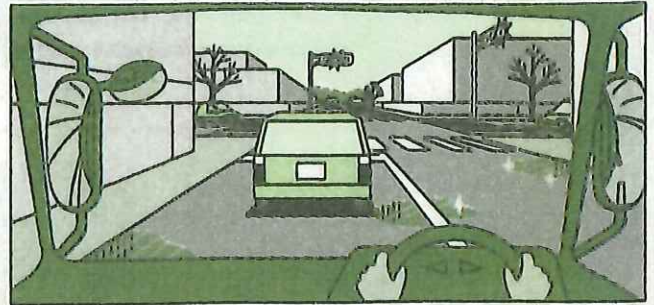
○ ◆どのような危険がありますか？

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

危険予知訓練(KYT)シートの解説

▶ 交通事故防止編

あなたは早朝の凍結した道路を前車に追従しながら走行しています。前方の交差点の信号が黄色に変わりました。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



どのような危険がありますか？

- ①黄信号で停車した前車に追突する危険があります(図1)。
- ②前車への追突を避けようと急にハンドルを切るとスリップする危険があります(図2)。
- ③停止位置で止まり切れず交差点に進入して、左側の交差道路から発進してきた車と衝突する危険があります(図3)。

どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

- ①積雪路面では、乾燥路に比べて滑りやすくなるため、停止距離が長くなります。日本自動車タイヤ協会の調べでは、圧雪路で3.2倍、凍結路で5.4倍、ツルツルの凍結路では8倍も乾燥路に比べて滑りやすくなるというデータもあります。乾燥路と同じような車間距離で走行していたり、いつもと同じようなタイミングでのブレーキ操作では、止まりきれずに前車に追突する危険があります。凍結路で前車がいる時は、乾燥路よりも大きく車間距離をとって走行しましょう。
- ②前車に追突しそうになり、慌ててハンドルを切ると、スリップしてコントロールを失い、道路上で立ち往生したり、横転する危険があります。トラックの横転事故は復旧に時間がかかるため、その損害は非常に大きなものになります。冬場の運転ではスリップを招きやすい急ハンドルや急ブレーキ、急旋回など、「急」のつく運転操作をしないよう、慎重に運転してください。
- ③停止距離が延びる冬場は、漫然と運転してブレーキのタイミングが遅れると、停止位置で停止できずに交差点に進入してしまい、青信号で発進してきた車と衝突する危険があります。特に交通量の多い市街地や交差点の凍結路はツルツルになることがあり、

図1

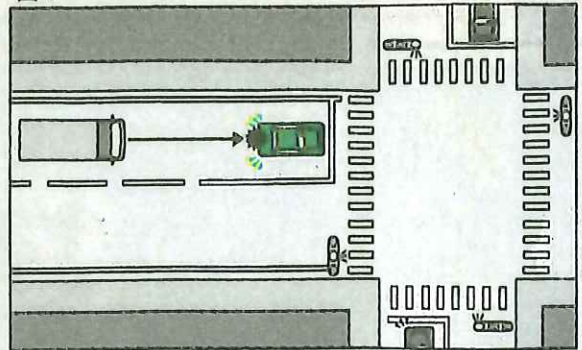


図2

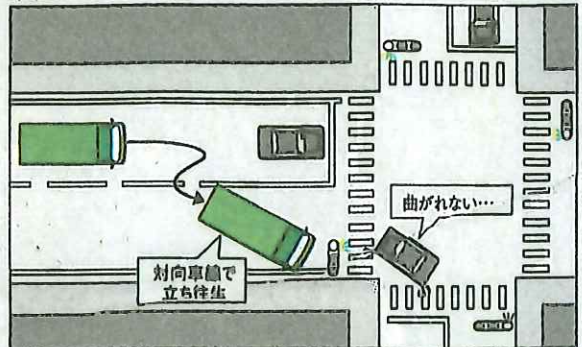
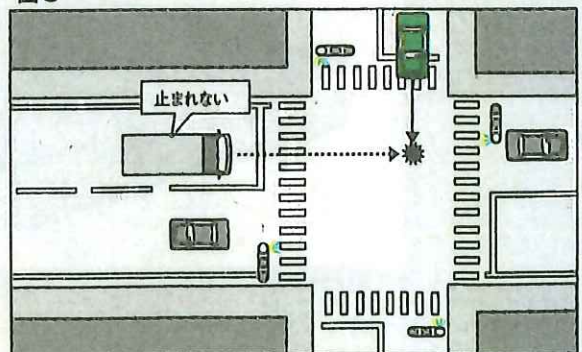


図3



一層滑りやすいため、注意が必要です。交差点への接近時、信号が黄色に変わった時は、無理をせず早めにブレーキを踏み、減速して停止態勢に入ることを徹底してください。